

第7回理事会(臨時) 議事概要

1 開催日時 令和8年1月22日(木) 15時00分～17時00分

2 開催場所 Japan Sport Olympic Square 14階 岸清一メモリアルルーム(東京都・新宿区)
次の役員は、自宅や職場、出張先からWeb会議システム(インターネット回線を使用した音声と映像を伝達するシステム)により参加すると同時に適時的確な意見表明が互いのできる状態となっていることを確認した。

栗原美津枝	鈴木大地	須藤実和
田口亜希	羽根田卓也	原田雅彦
三宅宏実	工藤陽子	塗師純子

3 出席者 理事総数 30名
出席理事 27名

会長	橋本聖子	副会長	渡邊守成
副会長	三屋裕子		
副会長	北野貴裕		
専務理事	太田雄貴		
常務理事	小谷実可子	常務理事	星香里
常務理事	林肇	常務理事	井上康生
常務理事	八木由里		
理事	赤間高雄	理事	伊東秀仁
理事	伊藤弘一	理事	岩渕健輔
理事	大久保秀昭	理事	栗原美津枝
理事	杉山文野	理事	鈴木大地
理事	須藤実和	理事	田口亜希
理事	田嶋幸三	理事	谷本歩実
理事	羽根田卓也	理事	原田雅彦
理事	三宅宏実	理事	村井満
理事	村上めぐみ	理事	
監事総数	3名		
出席監事	3名		
監事	工藤陽子	監事	寺田昌弘
監事	塗師純子		

4 議事の経過の要領及びその結果

本理事会は定款第30条の規定に定める定足数を満たしており、適法に成立した旨を告げた。また、会議に先立ち、ミラノ・コルティナ2026冬季大会TEAM JAPAN結団式及び壮行会の開催及び日本スポーツ政策推進機構が主催、日本スポーツ協会、日本パラスポーツ協会、本会が共催した日本スポーツ会議2026にて「日本スポーツ会議提言2026」として6つの提言が発表された旨を報告後、審議に入った。

5 議案

(1)令和7年度スポーツ団体ガバナンスコード適合性審査委員会による対象団体の審査について

本会、日本スポーツ協会(JSPO)及び日本パラスポーツ協会(JPSA)の3団体で設置した審査委員会によって対象28団体の審査を実施。そのうち本会加盟17団体について審議。

【決議内容】

17 団体の適合性審査結果が「適合」の承認。

(2)アスリート委員会選出委員選挙規則等の改訂について

アスリート委員会規程及びアスリート委員会選出委員選挙規則では、選挙権及び被選挙権を有する者の要件について、「TEAM JAPAN の選手として参加した又は参加する者」と規定している。パリ 2024 大会後に実施したアスリート委員会選出委員選挙の告示では、より分かりやすくするために「TEAM JAPAN の選手として認定された者」に変更し、TEAM JAPAN の一員として認定されながらも出場しなかった選手も対象に含むという従来の趣旨を明確にした。

ミラノ・コルティナ 2026 冬季大会後のアスリート委員会選出委員選挙に向けて、告示と規程の表現を統一するため、アスリート委員会規程及びアスリート委員会選出委員選挙規則について「TEAM JAPAN の選手として認定された者」の表記に統一する。

【決議内容】

- ・アスリート委員会規程の修正・追加並びに変更
- ・アスリート委員会選出委員選挙規則の修正・追加並びに変更

(3)第 6 回アジアビーチゲームズ (2026/三亜) TEAM JAPAN について

4 月 22 日から 30 日まで、三亜市／中華人民共和国で開催される第 6 回アジアユースゲームズ TEAM JAPAN について、組織委員会への Entry By Name 提出期限が 2 月 10 日となっている。次回理事会は 3 月 19 日を予定しているが、選手、監督・コーチ等を確定していかなければ、準備に支障をきたすため、TEAM JAPAN 個々の名簿・氏名、旗手、決定後のケガや病気などやむを得ない交替については、会長、専務理事、選手強化本部長、TEAM JAPAN 団長に一任いただきたい。

TEAM JAPAN 本部体制及び編成数については、選手 27 名、監督・コーチ等 11 名、本部員 6 名の計 44 名として、大会組織委員会と調整を進めている。

【決議内容】

第 6 回アジアビーチゲームズ (2026/三亜) TEAM JAPAN 個々の名簿・氏名、旗手、決定後のケガや病気などやむを得ない交替については、会長、専務理事、選手強化本部長、TEAM JAPAN 団長に一任する。

6 報告事項

(1) 第 25 回オリンピック冬季競技大会 (2026/ミラノ・コルティナ) ボブスレー競技参加資格問題への対応について

管理の強化、競技団体独自の成長を両立させた上で、より一層の連携体制を構築していき、課題の改善に取り組んでいく。

(2) 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況について

定款第 29 条第 4 項にて毎事業年度に 4 カ月を超える間隔で 2 回以上報告をしなければならない、と規定している。昨年の 7 月から 12 月の期間の職務執行状況について、理事会及び常務理事会などの開催状況をまとめた。常務理事会では、ガバナンス等、本会の運営上必要なこと、事業や役職員の諸業務の執行に関すること、理事会、評議員会等に関するもののほか、日常会務の運営上、必要な事柄について協議を重ねてきた。会長、常務理事、専務理事を中心に会長定例会を原則毎週 1 回開催し、日常会務の運営に関する協議、常務理事会議案の事前審議などを行った。各業務執行理事は、令和 7 年度第 4 回理事会で承認された分担業務に基づき、責務を果たしている。

次回は、6 月の令和 8 年度第 2 回理事会で報告予定。

(3) 専門委員会、専門部会及びタスクフォースの委員等について

前回理事会において、専門委員会、専門部会、タスクフォースの委員等を報告したが、本会の環境

への取り組みに対し、より多くの知見を部会に反映させるため、サステナビリティ専門部会に、桑田信明氏、村上めぐみ氏の2名を追加した。

(4) 東京 2020 大会レガシー発展の取り組みについて

1月20日に都庁にて、橋本会長及び森 JPSA 会長が小池都知事に面会した。東京 2020 大会 5 周年を機に、東京都、JPC、本会の3者が連携し、子どもに本物の感動を提供する、誰もがスポーツで輝く社会、アスリートの世界への挑戦の後押し、の3点を目的に活動していきたい旨を説明。詳細な取り組みについては、今後、各担当部署で東京都及び JPC と連携していく。

(5) 国際総合競技大会関係について

1) 第 25 回オリンピック冬季競技大会 (2026/ミラノ・コルティナ) TEAM JAPAN

2月6日から2月22日まで、ミラノ、コルティナを中心に開催される第25回オリンピック冬季競技大会(2026/ミラノ・コルティナ)のTEAM JAPANについて、本日現在、男子45名、女子73名、選手計118名、監督・コーチ等78名、合計196名を認定。今後、新たに出場権獲得や国際競技連盟による参加枠配分等があった場合は、本会加盟団体の推薦を受けて認定手続きのうえ、発表する。

TEAM JAPANの旗手については、男女各1名の最大2名を指定できることから、男子はスケート/スピードスケートの森重航選手、女子はスキー/スノーボードの富田せな選手を選任した。

先日の結団式については、旗手代行として、スケート/フィギュアスケートの坂本花織選手が務めた。

2) 第4回ユースオリンピック競技大会 (2026/ダカール) 関係

10月31日から11月13日まで、セネガル共和国のダカールで開催される第4回ユースオリンピック競技大会(2026/ダカール)について、昨年6月、日本はサッカー、バスケットボール、セーリング、ハンドボールを除く21競技141種目を出場希望として参加意思表明書を提出。現在、大会組織委員会からの参加枠割り当ての連絡を待っている。

昨年12月中旬頃を目途に連絡が入る予定であったが、大会参加人数上限である2,700名の枠に対し、206のNOCから約15,600名の参加希望が入っており、大会組織委員会と各競技の国際連盟において調整が進められている状況から、各NOCに対する参加割り当て連絡が今年3月から4月頃になる見通し。なお、本大会への参加を表明している本会加盟団体との情報共有の場を、今後設定予定。

本大会がアフリカ大陸で行われることから、TEAM JAPANの健康に留意した安全確保を最優先とし、現在、医学サポート部門にワクチンワーキングを設置し、TEAM JAPANへのワクチン接種に関する検討を進めている。接種すべきワクチンの種類を整理し、マラリア対策と併せて議論を進める。

3) 第7回アジアインドア・マーシャルアーツゲームズ (2026/リヤド) 関係

12月13日から12月21日まで、サウジアラビアのリヤドにて第7回アジアインドア・マーシャルアーツゲームズ(2026/リヤド)が開催されることが決定し、大会組織委員会からの公式招待状を受信した。

実施予定競技は16競技。各加盟団体及び統括団体に通知している。今後の予定については、OCA及び大会組織委員会と密に連携を取り、進捗を理事会にて報告する。

4) 第33回ユニバーシアード冬季競技大会 (2027/長春) 関係

来年1月15日から1月25日まで、中華人民共和国の長春で開催される第33回ユニバーシアード冬季競技大会(2027/長春)について、昨年11月26日に開催が決定した。現時点の実施競技は、スキー/アルペンスキー、スキー/クロスカントリースキー、スノーボード、フリースタイル/フリースキー、スケート/スピードスケート、スケート/フィギュアスケート、スケート/ショートトラック、アイスホッケー、カーリング、バイアスロン、スキーマウンテンアスリート、スキーオリエンテーリング。パラリンピック競技では、スキー/アルペンスキー、スキー/クロスカントリーが予定。最終決定は来月(2月)の予定。

(6) 選手強化事業関係について

1) 令和8年度スポーツ指導者海外研修事業研修員

令和8年度に派遣するスポーツ指導者海外研修事業研修員について、加盟団体に募ったところ、4競技団体より5名が推薦された。書類選考の後、12月上旬に推薦のあった5名と面接を行い、選手強化事業専門部会で審議の上、4名を研修員として決定した。

2) 令和8年度JOCエリートアカデミー

令和8年度入校となるJOCエリートアカデミー第19期生について報告。書類選考、適性検査、面接及び選手強化事業専門部会での審議を経て、5名を2025年12月18日付で内定した。

内定者説明会后、入校の意思確認がとれた5名全員を第19期生として確定し、入校に向けた手続きを進めている

第19期生5名の入校により、4月からはエリートアカデミー生は6競技で男子5名、女子17名の計22名で活動していく。

3) 令和8年度JOCナショナルコーチアカデミー実施概要

本会が承認するナショナルヘッドコーチ及びナショナルチームコーチは、JOCナショナルコーチアカデミーを受講し、修了することを条件としている。推薦される受講希望者は原則、日本スポーツ協会(JSPO)公認コーチ3又はコーチ4の資格保有者としている。ただし、JSPO公認コーチ3の専門科目を実施していない競技団体については、個別に対応する。

4) 令和7年度JOCキャリアアカデミー事業「アスナビ感謝の集い」

今年度で15年目を迎えるアスナビ事業を通して、選手を採用いただいた企業と、協力いただいている経済団体を招いた感謝の集いを2月13日、オリンピックミュージアムにて開催予定。

対象はアスナビを利用して選手を採用いただいた企業と協力経済団体で、30～40社の参加を想定。

理事の挨拶や歓談などを交えながら、JOCキャリアアカデミー事業スタッフで冬季オリンピックの2名がオリンピックミュージアムの施設案内をする予定。

(7) オリンピック・ムーブメント事業本部関係について

1) JOMの活動について

日本オリンピックミュージアム(JOM)の月ごとの入館者数を報告。オープン当初の2019年度はコロナ感染症が流行する前の初年度のオープン景気と、東京2020大会の1年延期決定前で、オープン後の約半年間は順調に入館者数が伸びた。

2020年3月からコロナ禍に入り、国や東京都からの要請を受けて臨時休館した時期を挟み、感染拡大防止のため、入館制限策として時間制の入館予約を2023年度4月までの約3年間実施した。

2) アントラージュ専門部会の活動

アントラージュ専門部会では、セーフスポーツ部門、アントラージュセミナー部門、表彰部門の3部門に分かれて検討・取組を進めている。

セーフスポーツ部門については、メンタルヘルス対策について、強化部と連携し、選手を取り巻く支援体制の整理を進めている。

アントラージュセミナー部門については、アントラージュを対象としたフォーラムやセミナーの具体的な内容、実施時期、形式等について、現在、議論を進めている。

表彰部門については、今後の具体的な表彰式の在り方や、海外表彰との連携などについて、引き続き議論を進めていく。

IOCは近年、競技の不正操作防止に非常に力を入れており、2024年12月に行われたOCAフォーラム、昨年10月に行われた第5回国際スポーツインテグリティフォーラムはじめ、多くのセッション等を行い、IOC傘下のスポーツ団体が、競技の不正操作を防ぐための規則の策定、啓発活動、情報収集活動等を促進している。IOCが各NOCに求めている対応には、SPOCと呼ばれる通報窓口担当者

の指名、啓発活動を行うアンバサダーの指名、規程の策定がある。SPOCについては、事務局にて対応、アンバサダーについては、アントラージュ部会長でありオリンピックである谷本理事とする。

IOCが目指す、不正操作防止のシステムでは、IOCのモデル規程を各IF、NOC、競技団体が適用することで、IOC傘下のすべての団体が同じルールの下で競技不正操作を禁止し、画一的な処罰基準を設け、1つの団体が科した処分を他の団体にも自動的に適用せるという相互承認の効果が生じる。

日本でも、このようなシステムに加わることが可能となる規程の適用を目指して、今年1年間をかけてIOCのモデルルールの和訳、日本のシステムに合わせた微調整、競技団体をはじめとする各スポーツ団体への説明と意見聴取を行い、規程を策定し、2027年3月の競技団体の規定改正時期に競技団体のモデルルールを各競技団体に適用、2027年4月から競技団体及び加盟団体等が一斉に適用を開始するというタイムラインを想定。

本会としては、IOCの進める方針に従い、IOCが公表している不正操作防止のためのNOC、国内競技団体モデルルールを日本語訳したうえで、国内の制度に合致するように調整し、ドーピング規程同様に不正操作においても画一的な処罰基準と相互承認のシステムを構築出来るよう、本会、競技団体が適用する形での不正操作防止に関する規程づくりを目指していく。

(8) 加盟団体審査委員会関係について

公益社団法人日本クレール射撃協会には、9項目の指導内容の改善状況について、3か月ごとに書面での報告を求めていた。令和7年11月に開催した本会加盟団体審査委員会及び追加情報の確認で、本会から指摘した改善項目の全9項目の改善を確認した。よって、本理事会後、加盟団体審査委員長名で同協会長宛に、指導に基づく定期報告対応の終了についての文書を発信予定。

(9) 国際委員会関係について

令和7年度JOC国際人養成アカデミーは、昨年6月から11月まで味の素ナショナルトレーニングセンターで開催し、全8週のスケジュールを終了した。英語で提供する国際コミュニケーション演習が半数と、日本語で提供する国際スポーツ関係の知識、異文化理解、思考法などの科目が半数で、合計82コマを提供。受講者からのフィードバックからは高い満足度が確認された。2011年から2025年の15年間の累計で417名が本アカデミーを受講した。IFでは131名、AFでは71名と、過去のアカデミー受講生による国際スポーツ組織のポスト獲得も着実に進んでいる。

(10) マーケティング関係について

1) TEAM JAPAN パートナーシップの契約状況

11月21日に久光製薬株式会社とのTEAM JAPAN パートナーシップ契約の締結を発表した。同社は東京2020大会以降、オフィシャルパートナーとして継続しており、契約カテゴリーは外用鎮痛消炎剤、筋肉疲労ケア製品、医療用サポーター。

これにより、TEAM JAPAN パートナーは計15社となった。

2) TEAM JAPAN シンボルアスリートソーシャルアクション「UENO YUKIKO SOFTBALL FESTA 2026」実施報告

1月12日にTEAM JAPAN シンボルアスリートソーシャルアクション「UENO YUKIKO SOFTBALL FESTA 2026」を実施。

シンボルアスリートソーシャルアクションは、シンボルアスリート自らが実施したい社会貢献活動をJOCが支援。シンボルアスリートとJOCが主催となり、NFやJOCパートナー都市にも協力を得ながら、シンボルアスリートに企画から当日の実施まで主体的に参画してもらい実施する。

本イベントは、2023年12月の第1回に続き2回目の開催。ソフトボールを通じて触れあうことで、次世代を担う子ども達に競技の面白さ、スポーツの楽しさを感じてほしいという上野選手の思いから、ソフトボール経験者に向けたソフトボール教室ではなく、ソフトボール未経験者でも楽しめる内容で実施。参加対象は小学3年生から6年生で今回の参加申込は131名（実参加は102名）。

2022年から始まったシンボルアスリートソーシャルアクションは、今回で通算6回目。

3) TEAM JAPAN TVCM

ミラノ・コルティナ 2026 冬季大会に出場する TEAM JAPAN に対する応援機運醸成に向け、「ともに、一歩踏み出す勇気を。」をコンセプトとしたコミュニケーション戦略と連動したロゴニション広告を実施。コンセプトを広く社会に発信し、パートナー企業のさらなる認知向上のため、パリ 2024 大会時と同様に TVCM を制作し、民放各局と連携しオリンピック中継番組内や TVer のオリンピックライブ配信サイト等を中心に出稿する。

1 月 18 日の壮行会でパフォーマンスを行った中島健人氏の TEAM JAPAN 公式応援ソング「結唱」を楽曲として使用し、事前期篇と、本番期篇 2 種類の 3 タイプを制作。JOC 公式 YouTube 「TEAM JAPAN TV」の他、パートナーである LIVE BOARD 社の街頭ビジョン、TVer のオリンピック特設サイトで放映。今後は、東京メトロの車内ビジョン、オリンピック直前特番、民放でのオリンピック中継番組内でも放送予定。

(11) 第 20 回アジア競技大会 (2026/愛知・名古屋) について

AINAGOC 副事務局長及び事務局次長より、10 月 22 日に組織委員会の第 50 回理事会を開催した旨を報告。

7 その他

令和 8 年第 8 回理事会は、3 月 19 日(木)15 時開催と報告。

以上